

新しい価値と本質を提案するプレミアムマガジン

# SEVEN HILLS

*Premium*

[セブンヒルズ・プレミアム]

2012 May  
Vol.030

5

TRAVEL

秘境トレッキングリゾート、フィジー  
魅惑のパナマ運河クルーズ

SPECIAL

ハワイ・オアフ島の特選不動産

特集

## シアトルのプレミアムライフ

Part1 プレミアムな美食の愉しみ

Part2 自然が育む高級建築

Part3 “航空都市”のプレミアムサービス

# プロトコールの一環としての審美歯科とダンス パーフェクトを超える心身の調和を目指して

Code Name“PROJECT MONACO”—世界一の歯科技工士と生み出す、世界一の歯

世界一有名な日本人歯科技工士で、現在も歯科医療の最先端を走り続ける桑田正博氏。

帝国ホテル内で「協立歯科 クリニック デュボワ」を経営する歯学博士、中原悦夫氏。

そして、ボールルームダンスの第一人者であり、グランド ハイアット 東京でハナオカダンスギャラリーを主宰する花岡浩司氏。

3人のスペシャリストが出会い、世界一印象的で美しい歯を生み出すためのプロジェクトがスタートした。

コードネーム、“PROJECT MONACO”。

異なる分野でありながら、プロトコールという共通の理念で繋がった究極の美が実現した。

医療法人社団 協立歯科  
クリニック デュボワ理事長  
中原悦夫氏

公益財団法人 愛世会  
愛歯技工専門学校校長  
桑田正博氏

ハナオカダンスギャラリー主宰  
花岡浩司氏



帝国ホテルプラザの4階にある「クリニック デュボワ」。  
PROJECT MONACOは、ここで数回のミーティングを  
経て行われた



花岡氏の歯の施術をする桑田氏と中原氏。素人では判断がつかない僅かな凹凸の差が、印象を大きく変える

### 3人の異なる分野の スペシャリストが抱く、 共通の美意識

ダンスと審美歯科という、一見接点がないように見える2つの分野。しかし、この2つの世界が、実はプロトコルという共通の理念で繋がっていることをご存じだろうか。花岡氏は世界のソーシャルシーンに長年身を置いてきたが、舞台上に立つ者にとっての、美しい歯の重要性を経験から身を持って痛感していた。花岡氏と「クリニックデュボワ」の理事長で歯学博士である中原悦夫氏は、六本木男声合唱団倶楽部のメンバーでもある。その毎年の海外公演は各国を代表する舞台上で開催されるが、その滞在先などで、両氏は美しい歯をダイヤモンドの等級に置き換えて、歯の4C、理想的なCLARITY、COLOUR、CLEARNESS、CUTTINGについて、折に触れて語り合ってきたという。そしてこの歯の4Cを完璧に実現することができるのが、中原氏と20年以上に渡ってともに働くパートナーであり、

世界一有名な歯科技工士として名を馳せる桑田正博氏だった。

今回、この分野が異なる3人のスペシャリストが、プロトコルの体現という同じ理想の元に集い、世界一印象的で美しい歯を作るというプロジェクトをスタートした。プロトコルの観点から見た、理想的な歯とはどのようなものなのか。花岡氏の歯の施術を例にとり、その美意識に迫った。

### “PROJECT MONACO” —世界一の歯の定義とは？

世界一の歯の定義とはどのようなものなのか。桑田氏によると、肉体と精神の調和である「トータル・ハーモナイゼーション」の上に行く、さらに完成度が高い「コンプリート・ハーモナイゼーション」を実現することだという。「歯にも人にも、固有の個性、表情、魅力があります。特に、トップアスリートやダンサーの身体を支配しているのは歯と歯茎ですから、花岡さんのように歯を美しくすることでトータルイメージ(ボディーコ

ントロール)を高められる能力があれば、自らの健康美から得た“人間美”をもって、さらに人に感動を与えられるようになります」(桑田氏)

また、美しい歯を作るには、歯科医師の資質も大きく影響するという。「修復治療とは、虫歯や欠損などで失われた口腔の部分を、適切な材料で適切な歯の形に補うことです。『そこにあるべき姿』を再現することなのです。そして、そのあるべき姿は、歯科医師であれば、当然学んでいます。しかし、医師の資質や感性、天性のインスピレーションによって、その理解度には大きな差があります」(桑田氏)

桑田氏は1988年にボストンで、まだ20代だった中原氏に出会ったが、すぐにその持って生まれた歯科医師としての素晴らしい感性を感じたという。「中原先生は、間違いなく日本最高峰の歯科医師です。彼のような優れた感性を持った歯科医師に出会うことも、美しい歯を作るための重要な条件ですね」(桑田氏)

## ダンサーの魅力を最大限に高める色 “COLOUR CODE MONACO”

審美歯科では、黄金分割比率で語られる真正面から見たヴィジュアル・プロポーションと、実寸のアクチュアル・プロポーション、動いた時の印象となるアクティブ・プロポーション、歯の色などで実際とは異なる印象を与えるヴィジュアル・イメージの4つの要素で、美しさが定義づけられる。花岡氏はダンスで舞台に立つため、特に動いた時に美しく見えるヴィジュアル・イメージを最大限に高めることが必要だった。そこで、舞台で観客から視線が来る前方160度のどこから見られても美しく、また照明や音響

によってイリュージョン効果が高められるような歯を目指した。

今回作った花岡氏の歯の色“COLOUR CODE MONACO”は普通よりかなり白いが、単に白いのではなく、舞台上で歯がナチュラルに見える、ぐっと前に出てくる印象を与える色にしたという。歯の色は光の吸収度(オブザーブション)と反射拡散度(リフレクション)によって変わる。花岡氏は舞台上で映えるよう、反射拡散が高くなるような色を求めた。

## 世界に1つのコンプリート・ハーモナイゼーションを実現

「修復治療、そして審美歯科で作ridす歯には、『エスティック・ピーク』と『ファンクショナル・ピーク』があります。エスティック・ピークは、理想的な見た目のイリュージョンを創り出すもので、歯の長さなどの見た目を変える効果があります。一方、ファンクショナル・ピークは、機能的な内部の調和のことで、身体組織と関わる実際的生物学的な効果のことで、この2つの調和がきちんと取れることが大事です」(桑田氏)

歯は見た目だけでなく、精神状態にも多

大な影響を与え、精神状態が良くなれば、より健康的な生き方ができるようになる。肉体的健康と精神的健康が調和することがトータル・ハーモナイゼーションであり、それをさらに完成度を高めたのが、今回の“PROJECT MONACO”で実現させた花岡氏のコンプリート・ハーモナイゼーションだ。数回の施術を経て、花岡氏のダンサーとしてのオリジナリティと魅力を引き立て、バイタリティとアクティビティある姿を演出する、桑田氏の協力による世界に1つしかない最高の歯が出来上がった。



### 桑田 正博

Masahiro Kuwata

公益財団法人 愛世会 愛歯技工専門学校 学校長。1962年愛歯技工専門学校より派遣されてアメリカへ留学し、セラミックの歯を開発。世界中の大学で客員教授を務め、現在も執筆活動や歯科模型の開発など歯科界の発展に力を注ぎ、歯科医療の最先端を走り続けている。

クワタカレッジ・校長／ボストン大学歯学部・客員教授／天津医科大学・客員教授／日本歯科審美学会(JAED)、アメリカ歯科審美学会(AAED)、アメリカ歯科審美協会(ASDA)、世界セラミック学会(ISDC)・すべてフェローメンバー／国際歯科学士会(ICD)・名誉会員／アメリカ歯科補綴学会(AP)・名誉フェロー



花岡氏の現在の歯型を見ながら、理想的な色や形を決めていく

施術が完了した花岡氏の歯。あらゆる角度から見ても美しい歯に仕上がった

ダンサーとしての魅力をさらに引き立てつつ、ナチュラルな白さが印象的



## 花岡 浩司

Koji Hanaoka

ハナオカダンスギャラリー主宰。ボールルームダンスの第一人者として、ダンス指導のみならず、その文化や精神を広めるための様々な活動を展開。世界を舞台にした華麗な交遊で知られる。ハイライフ全般に精通し、その高い美意識と行動力で常に注目を集める。2011年夏からは、ダンスレッスンの拠点をグランド ハイアット 東京に移し、より洗練されたスタイルで指導にあたっている。



## 中原 悦夫

Eisuo Nakahara

医療法人社団 協立歯科 クリニック デュボワ理事長、歯学博士。神奈川歯科大学非常勤講師。1984年日本歯科大学歯学部卒業後、87年より米国を中心に審美歯科とそのフィロソフィーを学ぶ。帰国後日本大学歯学部法医学教室にて学位を受ける。92年アメリカ審美歯科学会(AACD)より日本人で初の認定医を受ける。89年に日本での拠点として、協立歯科を設立し、2003年に現在の帝国ホテル内に「協立歯科 クリニック デュボワ」として移設する。

# 対談 花岡 浩司×中原 悦夫

## なぜ、パーフェクトを超えた審美“PROJECT MONACO”が必要か

### オーケストラの指揮者の役割こそ、歯の使命

**花岡** やっと“PROJECT MONACO”の歯が出来上がりました。装着してみました。が、どうですか？

**中原** 非常によくできていると思います。技工士さんが、ここまでよくここまで細かいオーダーに応えたなど。一般の方ならまだ簡単ですが、花岡さんの歯はダンスという仕事上の重要な一部分でもありますから、より難しかったです。身体との調和が、一つの究極の審美を描かなくてはなりませんでしたから。

**花岡** 先日日本木で信号を待ってたら、外国の方に「ティース、ティース。ハリウッドスマイル」と言われました。外国の方から「日本人のわりに」歯がきれいと言われることが多くて、実は時々カチンときています。日本人は、まだまだ口腔内の美に対する意識が低い。僕が身を置くダンスの世界、ソーシャルシーンで、アジアからの訪問者を一発でそれと認めさせるためには、歯、

それもパーフェクトを超えるような美しい歯が必要です。ダイヤモンドにも似た、さりげなくナチュラルに見える美しい歯が。僕は日本人の歯についての意識をもっと引き上げたいと、常に思っています。

**中原** 今回花岡さんに提供した歯は、色々な項目で一般の方にも当てはまりますし、きちっと基本は押さえられています。審美的な部分の満足度もそうですが、機能性、社会性も。それに、ここに投資するという、経済性の概念も大事です。高い安いでではなく、将来にわたって約束される価値への投資ですから。

**花岡** 日本人は、人前に出る機会が多い政治家も、歯についての意識が低いと思いませんか？ もっと口元への意識を上げてほしいですね。僕はダンスを通じてすごく歯を意識していますし、他のダンスの先生に比べても意識が高いと思います。

**中原** それは、患者さんの顕在的ニーズと潜在的ニーズに関わってくることですね。皆さんが歯科医院に来て「こうしたい」と話す内容は、顕在的ニーズ。自分で意識してい

ることです。花岡さんはすごく高度なところまで意識していますから、明確なイメージがあるし、それを伝えてきます。しかし政治家でも、スーツや話し方など他の分野には明確な理想的イメージがあっても、歯についてはそこまで明確なイメージを持っている人は意外と少ないのです。もしかしたら、歯をきちんとしたら、もっと選挙の得票数が上がるかもしれない。そういう潜在的ニーズを引き出すのが、我々プロの役目です。患者さんの意識のレベリングを高く引き上げていくのが、我々の使命だと考えています。

**花岡** 意識をどうやって引き上げるかが大変ですね。「僕はこれでいい」という思い込みもあるかもしれませんし。しかし、全身の健康のコーディネイトとしても、歯はすごく重要です。オーケストラの指揮者の役割こそ、歯の使命であると思っています。トップアスリートの歯は必ず美しいですが、それは彼らが最高のパフォーマンスをするために、身体のどの部分をコントロールすればいいかを知り尽くしているからです。口腔内の見えない筋肉が、その答えなのです。



## 究極の審美は、生まれ持った歯を生涯白く美しいまま維持すること

**花岡** 審美歯科の治療で、患者さんがわがままな要望をしてくることもあるでしょう？ そういう時はどう対処されるのですか？

**中原** 一方的な要望によってマイナス面があるかどうかを、しっかり吟味します。医療は、患者さん側の「こうしたい」という意思決定である「自律の原則」と、我々医師が患者さんに対して、知り得る限り最大限の利益を与えようとする「恩恵の原則」の、2つのバランスで成り立っています。患者さんの意思だけを尊重すると恩恵の原則に反することになりますから、常に対立する2つの中で、最大限の効果を出さなくてはなりません。その人がやりたいこと、日常生活、今日の前で話している内容、それらの

乖離なども見定めて、我々が判断します。しかし、究極の審美は、その人の生まれ持った歯を、白く美しいままで正しい歯並びのまま、生涯維持し続けることです。

**花岡** 哲学的な概念なんですね。ただ歯を白くするだけでしたら、髪を染めるのと変わらないですが。

**中原** うちのゲストで、元々は歯列矯正する気がなかったのに、矯正している人は約8割です。「矯正って、こんなに重要な意味を持ってたんですか」と、その重要性に気付いた時に、初めてその人の意識が変わっていきます。誘導しているわけではなくて、「その治療をやる場合はこうなります」と説明していくと、メリット・デメリットをしっかり納得した結果、「1週間でやってもらいたかったところを2年待ちます」とか、そういう考えに変わっていきます。

**花岡** 子供に矯正させるのが圧倒的に多

いのが、外国ですよ。母親の歯への意識の違いが、日本と海外では大きいと思います。日本は子供の時にはあまり意識せず、大人になってから矯正しようとして大変になります。

**中原** 若いうちにやっておくことが大切ですね。うちでは「妊娠したら、お母さんはすぐに来なさい」と言っています。子供がなぜ虫歯になるかと言うと、母親から感染した菌を幼少期に抱えるからなのです。だから妊娠中に菌を絶っておけば、感染力が弱いので虫歯になりにくいのです。あとは色の問題とか、持って生まれたものを美しくキープすることを考えていけば大丈夫です。

**花岡** プロトコルとしての歯への意識、プロトコルの知識を、家族全員が持ってほしいですね。そういう意味では、まだ残念ながら日本人の国民性は高いとは言えないと思います。

## 審美のフィロソフィーを、日本人にしっかり伝えたい

**中原** 審美歯科を20年以上伝えてきましたが、これからは審美のフィロソフィーを日本人にきちんと伝えていきたいです。口臭を出さないなどの、歯に関する意識はプロトコールの一環です。また、治療を受けてもらうまでには、医師と患者が価値観を同じにする、同じレベルにするための時間がある程度必要です。

**花岡** 僕は歯に対する意識は高い方ですが、こうやって中原先生の治療を受けるまでには、少し時間がかかりましたよね。

**中原** ステップを踏んで何度も会って、信頼関係を重ねて、やっと治療に至ります。そのステップはある種、崇高なものです。価値観は違って当たり前で、しかし、最低ここは押さえてもらわなくてはという価値観を共有してもらいます。僕は治療に入る前まで最低3時間をカウンセリングにあてています。これは僕が言っていることを信じなさい、と言っているわけではなく、対話することでレーダーを発して、そこから返ってくるものからその人の情報を得ているのです。最終的ジャッジは「恩恵の原則」に基づいてやりますが、価値観を共有しないまま「先生の言われることをその通

りにやります」と言われても、それもまた無理ですね。

## プロトコールとしての、歯とダンスの共通点

**花岡** ダンスというと、ステップなどの技術を教えると思われることが多いです。歯科医師も技術だと思われるのではないのでしょうか。しかし、本当は両方ともプロトコールから入っていくものだと思います。実は、ダンスの先生は技術ではなく、生活一般を教えているのですが、一般の人の認識はそうではない。プロトコールという本来の目的を正確に認識している人は少ないです。一番簡単なのは上っ面のテクニックを教えることで、これは誰にでもできます。しかし、プロトコールは一生かけて作り上げていくものですから。

**中原** ダンスをやる上でも、全身の美を高めるために、口腔周辺のことがいかに大切か。文化的位置づけとして、プロトコールとして、歯とダンスは非常に共通点がありますよね。

僕は歯科医師になった時、できれば高意識者層の治療を手掛けたいと思いました。そこで計算してみたら、80歳まで治療したとしても、一生で約3万人の患者さん

しか診ることができないのです。それならば、日本の頂点の3万人を診たいなと思いました。どうすれば意識の高い人が来院してくれるのかと考えましたが、そういう人は技術だけでは来てくれません。来てもらうためには、自分の意識を上げるしかないのです。

**花岡** 本当にそうですね、非常に共感します。ダンスも技術はあって当たり前で、それ以上を生み出そうと求めていく気持ちが必要ですから。意識を上げるには、知識や技術をためるだけではダメなんですね。ステップとしては大切ですが、それだけでは意識は上がらない。

**中原** 意識は、そこからふわっと湧き出たものですから。そういうものがあるか、ないかの違いです。自分が意識を高めて生きていけば、人生で必要な人には必ず出会えます。それも、寸分のタイミングのズレもなく。例えば、23年前の僕と桑田先生のように。

**花岡** これからもプロトコールを実践する者として、お互い、意識の向上に努めていきましょう。そして、日本の高意識者層にプロトコールの重要性をもっと伝えていきたいですね。今回は、世界一の歯を作るプロジェクトにご協力いただき、本当にありがとうございました。



医療法人社団 協立歯科 クリニック デュボワ  
〒100-0011千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルプラザ 4階  
TEL:03-3509-1651 FAX:03-3509-1657  
URL:<http://www.dubois.jp/>